

03.0.20 式を放し給よ)

# レーニン主義の偉大な勝利

レーニン生誕九十五周年を記念して

紅旗 1965年カ4号



外文出版社

北京

# レーニン主義の偉大な勝利

レーニン生誕九十五周年を記念して

『紅旗』誌1965年第4号社説

外文出版社

北京

## レーニン主義の偉大な勝利

レーニン生誕九十五周年を記念して

『紅旗』誌一九六五年第四号社説

この四月二十二日は、偉大なレーニンの生誕九十五周年にあたる。

レーニンはある革命家を記念したとき、マルクス主義者が歴史上の革命家を記念するのは、けっして、下心をもった一部の人たちのように、ウソをついて人をだますために、キレイな言葉を並べたてたり、俗っぽい讃辞をのべたりするのではなく、自己の任務を明らかにするためである、とのべたことがある。現在、われわれがレーニンを記念するおもな任務は、断固としてレーニン主義の革命の原理をまもり、現代修正主義者のレーニン主義にたいするわい曲に反対し、現代修正主義反対の闘争を帝国主義反対の闘争、とくにアメリカ帝国主義反対の闘争としっかり結びつけることである。

3  
一九六〇年、レーニン生誕九十周年を記念したとき、われわれはレーニン主義の旗を高くかか

げて、現代修正主義者が国際共産主義運動のなかにもたらした思想的混乱と対決して、『レーニン主義万歳』など三つの著名な論文を発表した。われわれはこの三つの論文のなかで、レーニン主義の基本的原理と現代世界の実際状況にもとづいて、帝国主義、戦争と平和、民族解放運動、プロレタリア革命とプロレタリアート独裁などの諸問題について重点的に論述し、レーニン主義がけっして現代修正主義者のいいふらしているように「時代遅れ」にはなっておらず、ますますそのかぎりない生命力を発揮していることを論証した。当時、われわれはまだフルシチョフとソ連共産党指導部を、公然と批判してはいなかったが、この三つの論文に示された観点は、フルシチョフ修正主義者のまきちらした一連のデタラメな観点と完全に対立するものであった。

フルシチョフ修正主義者はわれわれのこの三つの論文にたいして骨に徹するほどの憎しみをいだき、恐れおののいた。かれらはおびたらしい論文や談話を発表し、さまざまの卑劣で恥しめな手段をとって、われわれの観点をほしいままに攻撃した。こうして、フルシチョフ修正主義の正体はいっそうはつきりとさらけだされた。われわれは各国の革命的マルクス・レーニン主義者とともに、マルクス・レーニン主義にたいするこのような裏切り者にたいし、国際共産主義運動のなかのこうした逆流にたいし、当然、断固としたたたかいをいちだんと展開しないわけにはいかなかった。

フルシチョフは失脚した。

だが、ソ連共産党の新しい指導部は、ひきつづきフルシチョフのあの体係だった修正主義路線を忠実におしすすめ、フルシチョフなきフルシチョフ主義を執行する、と再三にわたって公言している。かれらはひきつづきすべての革命的マルクス・レーニン主義者と対立する側に立っており、こんにちまでずっと、われわれが『レーニン主義万歳』など三つの論文のなかで論述したレーニン主義の基本的原理にたいし、手段を選ばぬ中傷と攻撃をやめていない。

『レーニン主義万歳』など三つの論文が発表されてから、すでに五年の歳月が流れた。この五年らしい事実は、いったいなにを証明しているだろうか。歴史はすでにもっとも公正な判決を下している。五年らしい事実は、まさにわれわれの観点がまったく正しかったということを示している。

この三つの論文が論述しているすべての問題をもちだして、いちいち論証すると、たいへん大きなスペースが必要である。そこで、ここでは、いくつかの問題にかぎってのべることにする。

#### 第一、帝国主義の本性にかんする問題

フルシチョフ修正主義者はいわゆる「創造的發展」に名をかりて、レーニンの帝国主義にかんする理論を完全にねちまげた。かれらは帝国主義の本性がすでに変わったとし、帝国主義が現代

における戦争の根源であることを否定した。かれらは、アメリカ帝国主義の支配層とその首脳は「みな戦争を望んでいない」とか、「われわれと同様に平和を保障するために苦心している」とか吹聴した。かれらは、いまだでは「すでに社会生活から戦争を最終的に、永遠に排除する現実的な可能性が存在している」などとさかんに宣伝し、一九六〇年は「武器もなく、軍隊もなく、戦争もない世界」を実現する最初の年となるであろう、と予言した。

フルシチョフ修正主義者とは正反対に、われわれは『レーニン主義万歳』などの論文のなかで「帝国主義の本性は変わりえないものである」、「世界に資本主義的帝国主義が存在するかがぎり、戦争の根源はやはり存在し、戦争の可能性がやはり存在する」と指摘した。われわれはまた、アメリカ帝国主義こそ現代における侵略と戦争のおもな勢力であり、全世界人民のもつとも凶悪な敵である、と指摘した。

五年らしい事実が証明しているように、フルシチョフを頭とする現代修正主義者の、帝国主義の本性は変わりうるものであり、またすでに変わっているというあの言論は、まったくアメリカ帝国主義に奉仕し、革命的人民をマヒさせようとするものである。

アメリカ帝国主義の侵略政策と戦争政策は全世界人民の断固とした反対をひきおこし、いたるところで失敗をなめてはいるが、それらの政策は、いささかも変えられていないばかりか、いつ

そう強力におしすすめられている。アメリカ帝国主義はいまアジア、アフリカ、ラテンアメリカで、さまざまな方式をつかつて民族解放運動をますますはげしく弾圧し、人民大衆をつぎつぎと大量に虐殺している。とくに南ベトナムでは、アメリカ帝国主義は人間性をまったく失った「特殊戦争」をおこない、アメリカとその従僕の軍隊を南ベトナムに送りこみ、各種の新兵器をつかっている。また、気がいのように戦火をベトナム北部に拡大している。

戦争政策のいつそう強力な推進にともない、アメリカ帝国主義は現代修正主義者が幻想をいだいているような全面完全軍縮を実行するどころか、全面完全軍拡に拍車をかけている。アメリカの軍事費の支出は、すでに平和時の最高水準に達しているばかりか、朝鮮侵略戦争当時の水準を大幅に上回っている。アメリカ帝国主義の代表的人物——アイゼンハワーにしろ、ケネディにしろ、ジョンソンにしろ——は、現代修正主義者によって鼻もちならないほど美化されているにもかかわらず、かれら自身は、アメリカには「戦争の危険をおかす度胸がある」、アメリカは全面戦争であろうと限定戦争であろうと、核戦争であろうと通常戦争であろうと、大きな戦争であろうと小さな戦争であろうと、あらゆる戦争をおこなう用意がある、と再三にわたってわめきたてている。

これらの事実から見て、帝国主義の侵略的本性がほんの少しでも変わったといえるだろうか。

帝国主義の首脳は、こんなことをやっていて、「平和を保障するために苦心しており」、「戦争を望んではいない」などといえるだろうか。これでいわゆる「武器もなく、軍隊もなく、戦争もない」理想的な世界にはいったといえるだろうか。

現在、フルシチヨフの後継者、ソ連共産党の新しい指導部は情勢におされて、ひきつづき人びとをだますために、わざとらしく心にもない反帝のスローガンをふたことみこと叫ばないわけにはいかなくなってきている。だが、かれらは、その一方フルシチヨフと同じ口ぶりでアメリカ帝国主義をあいかわらずもち上げ、ジョンソンに「良識」、「理性」、「自制」、「冷静」などといった聞こえのよい評言をあたえている。かれらはさらに、軍事費削減問題で、ソ連はアメリカ帝国主義と「互いに手本となる」ことができる、と大いに宣伝している。

とくに注目しなければならぬのは、強盗アメリカがベトナム問題であらゆる仮面をかなぐりすてて帝国主義の本性をすっかり暴露しているとき、かれらがなおも百方手をつくしてアメリカ帝国主義をかばおうとしていることである。かれらがフルシチヨフといささか違っているところは、フルシチヨフがあまりにもまがぬけていたのにたいし、かれらのやり方は多少巧妙だということだけである。フルシチヨフはかつて、バックポー湾事件はアメリカ帝国主義の侵略ではなく、中国とベトナムがひきおこしたものだ、とおおっぴらにデマをとばした。だが、こうした悪

党の手先の言葉は、自分の主人がしゃべった話とあまりにもそっくりだったので、一文のねうちもなく、誰ひとり信用しなかった。現在のソ連共産党指導部は、この教訓をくみとって別の論法にきり変えたようにみえる。かれらはいたるところでデマをとばし、中国共産党が社会主義陣営の団結と中ソの団結を破壊したので、これがアメリカのベトナム侵略を励ましたのだなどといふらした。こうした論調は、なによりもまず、是非をまったく転倒したものである。社会主義陣営の団結と中ソの団結を破壊したのは、明らかに、フルシチヨフ修正主義者である。アメリカ帝国主義の侵略を励ましたのも、明らかに、フルシチヨフ修正主義者である。こうした論調の実質は、あいかわらず強盗アメリカを免罪するために、アメリカのベトナム侵略はその帝国主義の本性によるものではなく、他のなんらかの原因によるものであるかのようにいいはることである。こうした論調をまきちらすものは、あいかわらずアメリカ帝国主義の弁護人の役をつとめているのである。かれらこそ真にアメリカの侵略を励ましているものである。

## 第二、いわゆる「平和共存」にかんする問題

フルシチヨフ修正主義者はいわゆる「創造的發展」に名をかりて、レーニンの平和共存政策を完全に修正した。かれらは、平和共存とは帝国主義と「互いに了解しあい」、「互いに迎合しあひ」、「互いに妥協しあい」、「互いに譲歩しあう」ことを意味するのであって、平和共存こそ「現

代における至上の絶対命令」であり、「社会が直面しているもつとも主要な問題を解決するいちばんよい唯一の実行可能な道」であるなどといっている。かれらはまた、ソ米両国の首脳がとりきめをおこなうことによつて「人類の運命を決定する」こと、つまりソ米が協力して世界を牛耳ることに、とりわけ心をよせている。かれらはこのような「平和共存」を自己の対外政策の総路線としているばかりでなく、全世界の共産主義者に「平和共存をめざすたたかいを自己の政策の基本原則とする」よう要求している。

フルシチョフ修正主義者とは正反対に、われわれは『レーニン主義万歳』などの論文のなかで、平和共存を実行するうえでの障害は帝国主義の側にある、と指摘した。社会主義国家が帝国主義国家と、一定の期間、平和共存を実行しうるのは、まったく闘争によるのである。しかも、平和共存の条件のもとでも、依然として複雑で、はげしい闘争が存在する。われわれはさらに、「平和共存というのは、国と国との相互関係の問題を指しているものであり、革命というのは、自国の被抑圧人民が抑圧階級を倒す問題を指しているものであり、そして、植民地・半植民地国家にとっては、なによりもまず、外国の抑圧者つまり帝国主義者を倒す問題なのである」と、とくに指摘した。この両者を混同することは、絶対に許されない。

五年らしいの事実が証明しているように、フルシチョフを頭とする現代修正主義者は、レーニン

の平和共存政策をかれらがアメリカ帝国主義に降伏し、国内で平和的転化を実行するかくれみのに変えているのである。

現代修正主義者がひたすら「全面的協力」をやるうとしている当の友人アメリカ帝国主義こそが、つねに、あらゆる手をつかつて社会主義諸国に敵対し、これを破壊し、また転覆活動や軍事挑発、戦争恐かつをおこない、さらには侵略戦争までもしかけていたのである。またこのアメリカ帝国主義こそが、全世界のいたるところで他国の領土と主権を侵犯し、他国の内政に干渉し、他国の利益に損害をあたえ、他国の人民の革命を弾圧しているのである。いま、アメリカ帝国主義がベトナムと全インドシナですすめている侵略戦争拡大の犯罪活動は、かれらが反革命の「全地球戦略」をおしすすめるうえでの重要な一環をなしているのである。

こうした状況のもとで、これら諸国の人民は断固として反米闘争をすすめるべきなのか、それともフルシチョフ修正主義者のいう「絶対命令」にしたがってアメリカ帝国主義に「迎合」し、かれらと「妥協」すべきなのか。かれらは革命的武装闘争で反革命的武装侵略に反対すべきなのか、それとも「平和共存」というこの「いちばんよい唯一の実行可能な道」を歩んで帝国主義の思いどおりになるべきなのか。これら諸国人民はフルシチョフ修正主義者の意志に反して、反帝革命闘争の実際行動で、はっきりと答えている。かれらは自己の切実な体験から、革命的人民が

アメリカ帝国主義と平和共存について語る余地などせんせんない、という結論を引きだしている。

現在、ソ連共産党の新しい指導部は依然としてフルシチョフのいわゆる「平和共存」に必死になつてしがみつき、ひきつづきそれを「ソ連共産党とソ連政府の対外政策の総路線」としていふ。かれらはソ米間には「ひじょうに広ばんな協力の舞台がある」と極力宣伝し、アメリカ帝国主義との秘密外交を大いにすすめている。かれらはベトナム問題で、いかにも体裁のよいことをいくつかならべたて、支持するという態度をいくらか示しはした。だが、これらすべてはまず最初に、強盗の頭目アメリカ帝国主義の了解をとりつけたものであり、ソ米協力の路線をそこなわないことをその限界としている。しかも、これらすべての落ちつき先は、あいかわらずアメリカと手をにぎって「平和交渉」のペテンをたくらもうとすることである。かれらは百方手をつくして、ベトナム人民の抗米愛国の正義の闘争を、ソ米交渉によって「問題の解決をはかる」という軌道にのせ、かれらのソ米協力による世界支配という犯罪的なねらいを実現しようと夢みていふ。ソ連共産党の新しい指導部がフルシチョフと同様、「平和共存」の名を利用して、国際的な規模で階級協調を階級闘争にとって代わらせようとしているのは、明らかである。かれらのこうした「平和共存」は、降伏共存でしかありえない。

### 第三、民族解放運動にかんする問題

フルシチョフ修正主義者はいわゆる「創造的發展」に名をかりて、レーニンの民族解放闘争にかんする理論を完全に裏切り、放棄した。かれらは、「植民地主義の根はすでにとりのぞかれていふ」、民族解放闘争はすでに「完成の段階」にはいつている、被抑圧民族は「平和的な闘争手段の助けを借りて帝国主義、植民地主義のくびきから解放をもちとることができ」、したがって「植民地主義を静かに葬る」ことができる、といっている。かれらは、各国人民の解放は各国人民じしんによつておこなわれなければならないというマルクス・レーニン主義の観点を否定し、民族解放にたいする国連の「義務」をとくに力をいれて宣伝し、「国連が植民地主義支配制度をとりのぞかないで、誰がとりのぞくのか」などといっている。かれらは、帝国主義の植民地政策はすでに変わつており、「もつとも先見の明がある植民地主義者は『ひどい目にあう』五分まえに身をかかわすものだ」と確信している。だから、かれらは帝国主義者と「植民地主義支配制度の一掃を目的とする措置について協力する」よう切望しているのである。

フルシチョフ修正主義者とは正反対に、われわれは『レーニン主義万歳』などの論文のなかで、被抑圧民族と帝国主義との矛盾は、現代世界の基本矛盾の一つであり、アメリカ帝国主義は現代植民地主義の主要なトリデであり、こんにち、アジア、アフリカ、ラテンアメリカであらし



のようにまきおこっている民族解放運動のもつとも凶悪で狡猾な敵である、と指摘した。帝国主義の侵略、抑圧、収奪は当然被抑圧民族の反抗をひきおこし、民族解放運動のあらしはアジア、アフリカ、ラテンアメリカを日一日と広はんにまきこんでいる。われわれはまた、被抑圧民族の解放を新旧植民地主義者の『仏心』に期待したり、アメリカ帝国主義のあやつる国連の「恩恵」に期待してはならず、自分じしんにたよって断固とした革命闘争をおこなわなければならない、とはっきり指摘した。われわれは「革命の暴力がなければ、反革命の暴力を一掃することはできない」とのべた。

五年らしい事実が証明しているように、フルシチョフを頭とする現代修正主義者はすでに新植民地主義の弁護人になりさがっており、帝国主義者とグルになって、各被抑圧民族の反帝革命闘争を庄殺しようと妄想している。

世界の憲兵だと自任しているアメリカ帝国主義は、みずから出兵して被抑圧民族の人民を虐殺しているほかに、国連の手を借りて、こちらで派兵・弾圧をおこなっているかと思うと、あちらで開発計画なるものもちだして、反植民地主義の革命闘争を一掃しようとかわだてている。とくにベトナムでは、アメリカ帝国主義はジュネーブ協定を公然とやぶりすて、ベトナム人民の平和的統一をさまたげ、ベトナム人民の独立と主権をほしひままにふみにじっている。そればかり

か、横暴にも三千万ベトナム人民に、かれらの屠刀のまえに無条件降伏せよと要求している。こうして、アメリカ侵略者の獐猛な姿は、いつそうむきだしにさらけだされた。

このような事実をまえにして、「植民地主義の根はすでにとりのぞかれた」などと誰が信じることができるだろうか。もし民族解放の任務がすでに「完成の段階」にはいつているというなら、いまあらしのようにまきおこっている民族解放運動はどう説明すべきなのか。もし国連がいたるところで、アメリカ帝国主義に奉仕していることを「植民地主義をとりのぞく」ために「貢献」しているのだというなら、コンゴ（レ）人民とインドネシア人民の新植民地主義反対、国連反対の闘争は、逆に「植民地主義一掃」の障害になつていのではないだろうか。また、アメリカ帝国主義は南ベトナムで相当「ひどい目」にあつていながらもかわらず、なぜ「五分まえに身をかき」ないで、ひきつづき軍隊を派遣して、これまでどおり南ベトナムにあつかましく居すわっているのか。こうした状況のもとで、南ベトナム人民はどうして「平和的闘争手段の助けを借りて」解放をかちとり、植民地主義を「静かに」葬ることができるだろうか。

国連共産党の新しい指導部は、口ぐせのように、「民族解放運動を支持する」とさかんに宣伝している。だが、かれらは前述のこれらのこれらの問題にどんな責任ある回答もしていない。なぜだろ。かれらの行動がこのうえなくはつきりとそれを説明している。フルシチョフが失脚するま

え、かれらは、アメリカ帝国主義の国連の名によるコンゴ民族解放運動の弾圧を支持した。その結果、コンゴの民族英雄ルムンバが殺害された。いま、フルシチョフの後継者たちはまた、アメリカが国連の名でコンゴに武力干渉したときの費用を負担することによるこんで同意している。かれらはまた、国連安全保障理事会で、アメリカがコンゴ(レ)でデッチあげた「全国和解」というペテンを支持し、コンゴ(レ)人民の革命勢力を圧殺しようとしている。とくに重大なことは、かれらが国連常設武装部隊の設置に、すすんで支持をあたえていることである。つまり、かれらはアメリカ帝国主義に奉仕する国際憲兵をつくることにひとほだぬいで、各国人民の革命闘争を弾圧しようとしているのである。これらすべてこそ、かれらのいわゆる「民族解放運動を支持する」具体的な行動にほかならない。ソ連共産党の新しい指導部にたずねたい。きみたちのことうした努力は、いったい「民族解放運動を支持する」ためのものなのか、それとも、もつとまよくアメリカ帝国主義と「歩調を合わせ」て、民族解放運動に反対し、それを破壊・弾圧するためのものであるのか。ことはきわめて明白である。ソ連共産党の新しい指導部の「民族解放運動支持」なるものは、いつわりであって、アメリカ帝国主義とグルになって民族解放運動を圧殺することこそほんものなのである。

五年らしいの事実は、まさにこのように容赦なく現代修正主義者の曲論を粉砕している。

フルシチョフが失脚したのち、また現代修正主義が公然と破産を宣告されたのち、われわれはかつて、ソ連共産党の新しい指導部に、誤りを正直に公然と認め、フルシチョフが権力の座にすわっていた時期のあの一連の修正主義路線と政策の撤回を宣言すべきだと勧告し、希望した。ところが、かれらはソ連人民の願いにそむき、世界各国の革命的人民の願いにそむいて、すでに破産してしまったフルシチョフ修正主義を伝家の宝刀としてうけつぎ、ひきつづきこれを振りまわしている。ことし、レーニン生誕九十五周年を記念するにあたり、かれらは相変わらず「わが党が第二十回、第二十二回大会で制定し、ソ連共産党綱領のなかに体现されている総路線」は、「創造的な態度」で理論にとりくむことを「いきいきと立証したもの」であると、恥しらずにも大言している。フルシチョフは、ほかでもなく、このようにいわゆる「創造的な態度」でレーニン主義にとりくむことを口実にして、実際にはレーニン主義のすべての基本的原理を放棄し、史上最大の修正主義者になりさがり、ついには徹底的な破たんをとげたのである。ところで、かれの後継者には、なにかもつとまじな結末でもあるだろうか。

レーニン主義は、全世界のプロレタリアードと勤労人民の無敵の武器である。敵がどんなに外部から攻撃をかけ、内部から「修正」をくわえようと、レーニン主義の輝かしい光をいささかもそこなうことはできない。それとは反対に、まさに内外のさまざまな敵とくりかえしたたかうな

かでこそ、レーニン主義の力はたえず発展、強化されていくのである。五年らい、マルクス・レーニン主義者と現代修正主義との闘争をつうじて、レーニン主義は国際的な範囲にわたってこれまでになく広はんに伝えられ、各国人民の自覚はきわめて大きく高まり、マルクス・レーニン主義者の隊列は急速に発展してきた。同時に、マルクス・レーニン主義者は現代修正主義に反対する闘争のなかで、現代の各国人民の革命闘争の新しい経験、新しい課題をたえず研究、総括することによってレーニン主義を全面的に豊かにしてきた。過去の五年は、現代修正主義が徹底的に破産した五年であり、レーニン主義が新たな偉大な勝利をかちとった五年である。現在、われわれの目のまえにあらわれているのはマルクス・レーニン主義の大発展、各国人民の革命事業の大発展というすばらしい情勢である。われわれはひきつづきレーニン主義の旗を高くかかげ、現代修正主義に反対する闘争を最後までやりぬき、プロレタリア革命事業を新たな、いっそう偉大な勝利へとおしすすめるなければならない。

レーニン主義万歳！

## レーニン主義の偉大な勝利

レーニン生誕九十五周年を記念して

1965年 初版発行

定価 40円

出版者 外文出版社

(北京阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店

(北京-P. O. Box 399)

編号：(日)3050-1206

3-J-703P

00013

